### 震災遺構・伝承施設等のあり方ーいわき市・浪江町の施設見学 から考える

伊藤久雄(NPO法人まちぽっと理事)

さる 5 月 15 日、16 日の 2 日間であったが、11 年前の 4 月には当時常磐線の終点だった 日立駅で降り、レンタカーで北上した。今回は、11 年前に大震災直後の状況を視察して回 ることができたところ、立ち入り禁止で行けなかったところ等の現状を見て回った。メンバ ーは 11 年前と同様、坪郷さん(早稲田大学名誉教授)、小林さん(NPO法人まちぽっと事 務局長)と私であった。ドライバーはもっぱら小林さんに依頼した。

本稿では、大震災後 11 年の現状を網羅することはできないので、震災遺構と震災伝承施設 2 箇所をみたことを踏まえて、そのあり方に絞って報告し、課題を考えたいと思う。

#### 1. いわき震災伝承みらい館

### (1) いわき市薄磯地区の被災状況と復興計画

いわき震災伝承みらい館は、いわき市薄磯地区にある。薄磯地区の被災状況は以下のとおりである(いわき震災伝承みらい館のパネルから)。

- ・被災前の状況 約250世帯 約760名が居住
- ・最大高8.51mの津波が襲来 100名を超える直接死 エリアの約9割以上の建物 が全壊・流失
- ・市立豊間中学校の校舎1階、体育館が破壊(現在は豊間町小学校の西側に移転、開校) このような大きな被害を受けた薄磯地区の復興計画は、いわき市復興事業計画(第四次) の「いわき市津波被災市街地土地利用方針 平地区」に示されている。

#### <薄磯地区の土地収用方針>

- ・ 住宅地等については、近隣の安全な場所へ移転するほか、防災対策等により、地域の安全性の向上を図りながら、快適な市街地の再生を目指します。
- ・ これらの地区では、地区幹線道路、地区内道路、公園等都市基盤施設を整備し、良好な 市街地環境を形成します。
- ・ 住宅地、商業・業務地等をゾーニングし、生活利便性や安全性の向上を図ります。
- ・ 海岸に沿って海岸道路を整備し観光振興の向上を図ります。
- ・ 平成 27 年度までに土地利用が図られることを目標に事業を進めていきます。 (具体的には次ページの図を参照)

# 【薄磯】



土地利用方針が示す「住宅地は近隣の安全な場所へ移転する」とはいわゆる「高台移転」 のことである (上図で高台エリアとあるところ)。また、高台エリアの東側には土地区画整 理実施エリアがある。では、このような被災と復興はいわき震災伝承みらい館において、ど のように展示されているだろうか。

#### (2) いわき震災伝承みらい館の展示状況

『地震、津波に加え、原発事故が重なるという未曽有の複合災害に見舞われた、いわき市 の震災経験をあらためて捉えなおし、震災の記憶や教訓を風化させず確実に後世へと伝え ていくことを目的とした施設です。』

施設は、1Fには展示室、多目的学習室などがあり、2Fに展望デッキがある。展示室は、 当時の状況や復興に向けた取組みの様子を伝える震災関連資料を展示・公開しており、ガイ ダンス映像、パネル展示(東日本大震災の発災から現在に至るまでの状況を各テーマ「地震、 津波、原発事故と避難、復旧、復興」ごとに時系列で展示)、被害にあった黒板・学習机の 展示(卒業式当日に津波の被害にあった「旧いわき市立豊間中学校」の黒板に残る寄せ書き や学習机の実物展示)、津波の映像展示(市内で発生した津波の映像)、ハンズオン展示

(直接手に触れて学べる防災グッズ等の体験型展示)、タッチパネル展示 (タッチパネルを操作して、地震発生時や避難所生活をシミュレーションで学び、震災前後のまちの変遷を見ることができる体験型展)、VR体験 (津波で甚大な被害を受け解体された、旧いわき市立豊間中学校の校舎と、校舎を襲う津波をバーチャルリアリティーにより再現) など、盛りだくさんの展示を見たり、体験することができる。

しかし、私が最も関心を持ったのは2Fの展望デッキである。ここには、津波被災前の街並みと現状や、復旧・復興の様子がパネルで展示されている。同時に、デッキからは復興の状況(区画整理された土地に新築された住宅や高台エリアなど)や国道6号線と防災緑地、新しく築造された堤防と薄磯海岸などを一望できる。ここはパネルと眼下の状況で災害と復興のあとをたどることができるスポットになっている(以下、当日の写真)。

### <国道6号線から望む未来館と、2F展望デッキ>

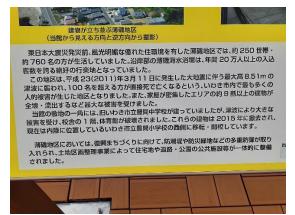




### <大震災前後の薄磯地区とその説明>

震災前のパネルには被災した豊間中学校の位置が、また復興計画のパネルにはみらい 館の位置が示されている(いずれもパネルの下の方にある。豊間中学校は、その西北にあ る豊間小学校の西側に移転した)。





### <震災前の薄磯地区の街並みと、被災益2か月後の様子>

ただし次ページの写真は、撮影した位置が逆の方向になるので、街の比較はできない。

震災前は6号線沿いに住宅が立ち並んでいたことが分かる。

### 東日本大震災約2ヶ月後(2011年5月9日撮影)





建物が立ち並ぶ薄磯地区

### <区画整理地区・髙台エリアと防災緑地>

区画整理地区の住宅建築が本格化するのかこれからか? 高台エリアはかなり住宅が 立ち並んでいる印象だった (写真はなし)。





<防災緑地と砂浜の間に築造された堤防>

堤防から海側には交流広場(多目的広場)もあり、見学者が砂浜に降りてい様子もあった。





以上のように、いわき震災伝承みらい館は小規模ながら、震災前後の街並みから被災・復 旧・復興の足跡を、パネルと展望デッキからの見学によって、リアルに体験できる施設とな

っている。児童・生徒の体験学習に止まらず、自治体職員や議員などがぜひ見学に訪れてほしい場所である。

### 2. 震災遺構・浪江町立請戸小学校

### (1) 1 カ月余で入館 1 万人 浪江の震災遺構「請戸小」

この見出しは、2021年12月6日付の朝日新聞デジタルである。その記事は次のように伝えている。

#### $\nabla$ $\nabla$ $\nabla$

東日本大震災で被災し、福島県内初の震災遺構となった「浪江町立請戸小学校」の入館者が開館から1カ月余りで1万人に達した。大地震、津波、原発事故の複合災害にあったことを思い出す場、災害への備えを改めて確認する場として整備したことに同町は、手応えを感じている。

1万人目となったのは南相馬市の高野康幸さん (79)。 妻サダ子さん (74) ら 3 人で 3 日 に訪れた。

高野さんは震災前、請戸地区に住む漁師だったが、津波で自宅も船も失った。原発事故に伴う全町避難で山形県に。3年ほど前、南相馬市に居を構えた。

請戸小を訪れたのは2度目。「児童は全員避難して助かったことを、みんなに知ってほしい」と話す。

町教育委員会によると、入館者は1日平均約280人。年間3万人の入館を見込むなか、10月24日の開館以来、わずか36営業日で1万人を突破した。団体客が増えているという。

ただ、小中高校生の割合は13%程度にとどまる。町教委の蒲原文崇・教育次長は「防災を 学んでほしいので、児童・生徒の割合を増やしたい」と話す。

請戸小の校舎は海岸から約300メートルの場所にあり、15メートルを超える津波が押し寄せ、2階の床まで達した。1階は教室の壁が流され、照明が垂れ下がるなど被災当時の姿をとどめ、津波の爪痕を間近に見ることができる施設となっている。(佐々木達也)

### (2) 浪江町請戸地区の被害

浪江町の被災は朝日新聞の報道のとおり、大地震、津波、原発事故の複合災害であった。 浪江町の「浪江町震災・復興記録誌」は町の人的被害を次のように記す。

### <浪江町の人的被害>

3月11日に浪江町を襲った地震は震度6強。これにより家屋等の倒壊および損壊被害が発生し、その後、襲来した大津波によって請戸川の河口付近の低地帯に甚大な被害をもたら

しました。

この災害による浪江町の人的被害は、直接死 182 人、このうち行方不明者が 31 人、圧迫死が 1 人となっています。津波による溺死は 150 人と、死因のほとんどが津波によるものです。 なお、震災による関連死は、2020(令和 2)年 12 月までに 441 人となっています。

(資料/ 2020 [令和 2] 年 12 月 7 日:福島県災害対策本部)

### ■津波による死者、行方不明者

(2015[平成 27]年 10 月 6 日現在) 単位:入

地区	大字	津波が原因に よる死亡	行方不明者	合計 (参考)
請戸地区	請戸	95	24	119
	中浜	13	1	14
	両竹	19	2	21
	小計	127	27	154
	棚塩	11	2	13
	北幾世橋	4		4
	権現堂	3		3
その	牛渡	1		1
他	立野	3	1	4
	田尻		1	1
	小丸	1		1
	小計	23	4	27
	合計	150	31	181

※家屋倒壊による圧死者1人、心臓発作による死亡者1人を含む (資料/浪江町災害対策本部)

そして上表のように、人的被害は請戸地区に集中しているのである。津波の大襲来がいかに大きかったかを物語っている。請戸小学校はその請戸地区あって、児童の被災者は一人も出さなかかったのである。

### (3) 震災遺構·浪江町立請戸小学校

震災遺構・浪江町立請戸小学校は昨年(2021年)10月24日に開館した。団体(20名以上)での見学については、事前に申し込みが必要であり、語り部も利用できるが、現在準備中となっている。

パンフレットには、「全員が無事避難することができた請戸町学校の奇跡」が書かれている (全文は次ページ参照)。その文章の中に、震災遺構・浪江町立請戸小学校の目的が簡潔に示されている。

### 一全員が無事避難することができた 請戸小学校の奇跡ー

## 浪江町立請戸小学校

1873年、浜谷善一氏宅に広業小学が創立されたことから始まり、建替えや改称を経ながら長年にわたって地域に愛されてきた請戸小学校。

2011年3月11日、未だかつて経験したことのない 大地震・大津波とその後の原発事故に見舞われ、甚大 な被害を受けました。当時通っていた児童93名(うち 1年生11名は帰宅していた)は、教職員の迅速な判断 と児童の協力により、奇跡的に全員が無事避難するこ とができました。

地域のシンボルである請戸小学校を震災 遺構として整備・保存し、防災について考 えるきっかけとして、また、後世へ伝承し ていくための施設として公開しています。

すなわち、『地域のシンボルである請戸小学校を震災遺構として整備・保存し、防災について考えるきっかけとして、また、後世へ伝承いていくための施設として公開しています』。 以下、写真で示すように遺構は基本的に被災当時のまま保存され、説明パネルで津波や避難の様子が語られている。

### <校舎の外観と大平山>

ベランダに津波到達の線がある。2階の床まで波がきたことが分かる。





### <津波に被災した教室の様子> 説明は要しない。









### 3. 震災遺構・伝承施設等のあり方

震災遺構・伝承施設等の現状についてのレポートや研究報告は、ネット検索によると以下の報告、論文等がみられた(2022年5月31日検索)。

- 東日本大震災の震災伝承施設の実態把握と効果的な利活用のための提案:来訪者の目的 と防災行動変容への効果に着目して(地域安全学会論文集 No. 39, 2021.11)
- 2019 年東日本大震災伝承活動調査報告書(2020 年 7 月、公益社団法人 3.11 みらい サポート)
- 東日本大震災による「震災遺構」の現況調査 城西国際大学紀要(2020年3月)
- 東日本大震災における震災遺構の現状-宮城県内の動向を中心に- (復興 13 号 Vol. 7 No. 1 2015. 7. 一般社団法人 減災・復興支援機構理事長 木村 拓郎)

https://f-gakkai.net/wp-content/uploads/2020/09/13-1-2KIMURA.pdf

これらの報告、論文等の中から、まず東日本大震災に関連する震災遺構・伝承施設等の現

状と国等の方針などをみておきたい。

### (1) 東日本大震災に関連する震災遺構・伝承施設等の現状

震災遺構・伝承施設等の現状については、「震災伝承施設の実態把握と効果的な利活用のための提案:来訪者の目的と防災行動変容への効果に着目して」に詳しい「対象とした震災 伝承施設とその略称」が掲載されている。上記に上げた報告、論文等の中では最も新しく、また対象地域も網羅していると思われるので、施設数が非常に多いが全施設紹介したいと思う。全体で46施設に及ぶので、次ページに掲載した。

施設数を県別にみると、次のようになる。(施設分類は伊藤)

$\Diamond$	青森県	体験学習施設	1	
$\Diamond$	岩手県	祈念公園等	5	
		伝承・展示施設	4	
		震災遺構	4	(防潮堤2,ホテル1,駅舎1)
		交流施設	1	
		後方支援資料館	1	(遠野市)
		博物館	1	計 16 施設
$\Diamond$	宮城県	伝承施設	7	(気仙沼向洋高等学校など)
		展示施設	3	(津波災害史、手書き新聞、発生 7 日間の記録)
		震災遺構	3	(小学校2, 3.11の日時計(
		祈念公園	3	
		交流施設	2	
		学習・資料館	1	
		帰宅困難者避難施設	t 1	計 20 施設
$\Diamond$	福島県	伝承・展示施設	3	
		震災・原子力災害伝	承施	設 1 (双葉町)
		震災遺構	1	(小峰城・城山公園)
		大震災展	1	(いまきミュージアム内)
		交流施設	1	
		避難施設	1	
		環境水族館	1	計 9 施設

なお、本稿で報告した 2 施設のうち、震災遺構・浪江町立請戸小学校は記載されていない。本調査の時点では公開されていなかったものと思われる。なお、この一覧には国の施設も含まれるが、本稿では区別していない。なお双葉町の東日本大震災・原子力災害伝承館に

### ついては後述する。

対象とした震災伝承施設とその略称

ID 所在地	施設名	施設名略称
1 青森県	八戸市みなと体験学習館	八戸市みなと体験学習館
2	地下水族科学館もぐらんぴあ	地下水族科学館もぐらんぴあ
3	震災遺構明戸海岸防潮堤	震災遺構明戸海岸防潮堤
4	島越ふれあい公園	島越ふれあい公園
5	羅賀ふれあい公園	羅賀ふれあい公園
6	津波遺構たろう観光ホテル	たろう観光ホテル
7	たろう潮里ステーション	たろう潮里ステーション
8	宮古市市民交流センター防災プラザ	宮古市市民交流センター防災プラザ
9	田老防潮堤	田老防潮堤
10 岩手県	震災メモリアルパーク中の浜	震災メモリアルパーク中の浜
11	3.11東日本大震災遠野市後方支援資料館	遠野市後方支援資料館
12	大槌町文化交流センターおしゃっち	おしゃっち
13	釜石祈りのパーク	釜石祈りのパーク
14	いのちをつなぐ未来館	いのちをつなぐ未来館
15	大船渡市立博物館	大船渡市立博物館
16	東日本大震災津波伝承館(愛称:いわてTSUNAMIメモリアハ	いわてTSUNAMIメモリアル
17	高田松原国営追悼・祈念施設	高田松原祈念公園
18	唐桑半島ビジターセンター・津波体験館	唐桑半島ビジターセンター
19	リアス・アーク美術館「東日本大震災の記録と津波の災害史	ADM TRA
20	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	気仙沼伝承館
21	高野会館	高野会館
22	石巻ニューゼ	石巻ニューゼ
23	震災伝承スペースつなぐ館	震災伝承スペースつなぐ館
24	東日本大震災メモリアル南浜つなぐ館	南浜つなぐ館
25	東松島市東日本大震災復興祈念公園	東松島市東日本大震災復興祈念公園
26	石田沢防災センター	石田沢防災センター
27	塩竈市津波防災センター	塩竈市津波防災センター
28 宮城県	東日本大震災学習・資料室(みやぎ生協文化会館ウィズ内)	東日本大震災学習・資料室
29	せんだい3.11メモリアル交流館	メモ館
30	震災遺構仙台市立荒浜小学校	荒浜小
31	NHK仙台拠点放送局	NHK仙台拠点放送局
32	津波復興祈念資料館閖上の記憶	閖上の記憶
33	名取市震災メモリアル公園	名取市震災メモリアル公園
34	岩沼市千年希望の丘交流センター	岩沼市千年希望の丘交流センター
35	山元町防災拠点・山下地域交流センター	山元町防災拠点・山下地域交流センター
36	山元町震災遺構中浜小学校	中浜小
37	中浜小学校震災モニュメント「3月11日の日時計」	中浜小学校震災モニュメント
38	アクアマリンふくしま	アクアマリンふくしま
39	いわき市ライブいわきミュウじあむ「3.11いわきの東日本大	, , , , ,
40	いわき市地域防災交流センター久之海・大久ふれあい館	久之浜・大久ふれあい館
41	いわき震災伝承みらい館	いわき震災伝承みらい館
	相馬市伝承鎮魂祈念館	相馬市伝承鎮魂祈念館
43 43	福島県環境創造センター交流棟「コミュタン福島」	コミュタン福島
44	個局原環境制造センター交流保「コミュタン個局」 城山公園	城山公園
45	吸口公園 みんなの交流館ならはCANvas	
46	東日本大震災・原子力災害伝承館	東日本大震災・原子力災害伝承館
10	木日平八辰火·原丁刀火吉囚承即	本日午八辰火·

ここで報告された「震災遺構・伝承施設」(震災伝承施設)のほかに、「東日本大震災による「震災遺構」の現況調査 - 城西国際大学紀要」に東日本大震災に関するデジタルアーカイブスと観光と関連したデジタルアーカイブスが報告されている。コメントはしないが、一覧表を紹介する。

東日本大震災に関するデジタルアーカイプス

主催	タイトル
Google Japan	『未来へのキオク-記憶を未来へのチカラに-』プロジェクト
国立国会図書館	東日本大震災アーカイブ『ひなぎく』
気仙沼市	気仙沼市震災記録資料集『けせんぬまアーカイブ』
無形文化遺産情報ネットワーク	311復興支援『無形文化遺産情報ネットワーク』
一般社団法人協働プラットフォーム	『東日本大震災・公民共同災害復興「311まるごとアーカイプス」』
せんだいメディアテーク	『3がつ11にちをわすれないためにセンター』
	『東日本大震災アーカイブ宮城~未来へ伝える記憶と記録~』
	『岩手震災津波アーカイブ希望』
	『東日本大震災アーカイブFukushima』
全国日蓮宗青年会	『慰霊碑マップ』
東北大学災害科学国際研究所	『みちのく震録伝 東北大学アーカイブスプロジェクト』
	『動画でふりかえる3.11-東日本大震災公開動画ファインダー-』
	『震災教訓文献データベース』
津波科学国際研究所	『津波痕跡データベースつなみさ』
国土交通省東北地方整備局	『震災伝承施設』

観光と関連したデジタルアーカイブス

	『防災+観光 BOSAI+Tourism』
一般社団法人とほくる(非営利型)	『復興現場の歩き方 2014-2015』
【東北震災復興ツーリズム協会】	

### (2) 国等の方針等

国等がどのような方針をもって「震災遺構・伝承施設等のあり方」を示してきたのかについては、「東日本大震災における震災遺構の現状ー宮城県内の動向を中心に一」が参考になると思う。その記述から何点か引用しておきたいと思う。

### ○ 復興構想 7 原則から

国が立ち上げた「東日本大震災復興構想会議」は2011年 6月に復興構想 7 原則を発表したが、その原則1に以下のような記述がある。

失われたおびただしい「いのち」への追悼と鎮魂こそ、私たち生き残った者にとって 復興の起点である。この観点から、鎮魂の森やモニュメントを含め、大震災の記録を永 遠に残し、広く学術関係者により科学的に分析し、その教訓を次世代に伝承し、国内外 に発信する。

### ○ 国の支援策

2013 年 11 月、復興庁は「震災遺構の保存に対する支援について」という施策を発表した。その内容は、以下のとおりである。

震災遺構の所在する市町村において、課題を整理の上、①復興まちづくりとの関連性、 ②維持管理費を含めた適切な費用負担のあり方、③住民・関係者間の合意が確認されるも のに対して復興交付金を活用して以下の通り支援する。

- ① 各市町村につき、1箇所までを対象とする。
- ② 保存のために必要な初期費用を対象とする(目安として、当該対象物の撤去に要する費用と比べ過大とならない程度を限度とする)。
- ③ 維持管理費については、対象としない。
- ④ なお、住民意向を集約し、震災遺構として保存するかどうか判断するまでに時間を要する場合、その間必要となる応急的な修理等に係る費用や結果的に保存しないこととした場合の撤去費用については復興交付金で対応する。

### ○ 震災遺構保存にあたっての課題

この復興庁の施策を受けた各自治体の動向について報告した上で、自治体の取組の中では様々な課題が明らかになってきたとして、たとえば以下の諸点を上げている。

- 住民との合意形成の方法と合意達成の指標
- ・遺構の耐用年数と補修の程度をどのように考えるのか
- ・保存遺構に併設するガイダンスルーム、事務スペースなどの付帯施設が復興交付金の対象になるのか
- ・見学者を遺構の中に入れようとした場合、消防法などの法規制をどの程度受けるのか
- ・長期的な維持費を自治体が負担できるのか
- ・語り部との連携をどうするか
- ・遺構全体のネットワーク化の必要性と運営主体の問題
- ・震災遺構とジオパークとの概念整理

そして、「内容としては保存技術の問題、安全対策の法的な問題、維持管理の問題、管理体制の問題などがあり、まだ様々な問題が山積している。これらの問題は今後具体的に事業を進めながらの解決になる。」

「今後の減災対策を推進する上で遺構は貴重な学習資源であり、また遺構保存は経済復興にも資するものと考えられる。このため様々な効果が期待できる災害遺構を一つでも多く残したいところである。その意味では震災遺構が全くない自治体もあることから、1 自治体 1 遺構の規定を見直し、宮城県なら被災自治体は15 市町を1 ブロックとし、保存遺構も県全体として15 遺構までを交付金の対象にすることも考えるべきである。」と結んでいる。

### (3) 震災遺構・伝承施設等のあり方

「東日本大震災における震災以降の現状-宮城県内の動向を中心に一」が指摘した事項や提言は、現在どうなっているか。非常に気になるところだが、私たちは2施設(いわき市ライブいわきミュウじあむ「3.11 いわきの東日本大震災展」を含めると3施設)を見て回っただけであるので、現状の評価は困難である。

ただし、先に報告した2施設については、以下の点を指摘したい。

- ◇ 両施設とも住民との合意形成、合意達成ができていたと思われる。それは請戸小学校の場合は児童の犠牲者がゼロだったこと、いわき震災伝承みらい館の場合は新設施設だったことも影響していると考えられる。
- ◇ 請戸小学校遺構の耐用年数と補修は困難をともなうことが予想されるが、保存技術の問題も含めて、市だけでなく、県や国の支援は今後とも必要だと思われる。
- ⋄ いわき震災伝承みらい館は小規模な新設施設なので、補修などの課題は当面問題ない。 課題は国道6号線沿いにはあっても、PR不足のように思われることである。請戸小学 校遺構にはバスによる見学者が多いと見受けられたが、伝承みらい館は少なくとも私た ちが訪問している間は、見学者は少数だった。
- ◇ 語り部との連携をどうするか等、福島県やいわき市等市町村全体の遺構のネットワーク 化はいわき市、浪江町とも課題だと思われる。とりわけ福島県の場合は、原発事故一避 難の長期化などを、県全体としてどう展示するかなどは、1つの町で取り組む課題では ない。次に述べる東日本大震災・原子力災害伝承館との連携も含めて県としての方針を 示すべきではなかろうか。

最後に、双葉町にできた東日本大震災・原子力災害伝承館について触れておかなければならない。この施設は「展示や語り部、研修、調査・研究を通じて、未曽有の複合災害について福島で何が起き、どう向き合ってきたかを伝え、防災・減災に向けた教訓を国内外や未来へつないでいく」ことを目的として福島県によって建設された。

### <東日本大震災・原子力災害伝承館 施設概要>

福島県は、東日本大震災及び原子力災害という未曽有の複合災害の記録と教訓を後世に伝えるとともに、復興に向けて力強く進む福島県の姿やこれまで国内外からいただいたご支援に対する感謝の思いを発信する「東日本大震災・原子力災害伝承館」を整備した。伝承館では、震災関連資料の「収集・保存」や複合災害に関する「調査・研究」、それらを活かした「展示」、複合災害の経験・教訓を伝えるための「研修」の4つの事業に取り組むとともに、福島イノベーション・コースト構想における情報発信拠点として地域交流の促進に取り組んでいる。(HPより)

私たちは残念ながら、帰途時間の関係でエントランスをのぞいただけで展示施設の見学はできなかった。したがって、この巨大施設の評価はできないので、西日本新聞の記事の一部を紹介しておきたい。

### <西日本新聞 2021/2/14> 語り部に批判認めず…原子力災害伝承館ルポ

東日本大震災の発生から10年を前に、福島県双葉町に昨秋開館した「東日本大震災・原子力災害伝承館」が注目されている。同町に立地する東京電力福島第1原発の事故被害を伝える県の施設で、新型コロナウイルス禍にありながら、来館者数は当初の予想を上回る。ただ、館は語り部に対し、国や東電など「特定の団体」を批判しないよう求め、専門家から「教訓の核心を伝えていない」と不満も漏れる。未曽有の事故はどう紹介されているのか。伝承館を訪ねた。

### $\nabla$ $\nabla$ $\nabla$

なお、記事全文は参考資料にあるのでぜひ読んでいただきたい。

東日本大震災・原子力災害伝承館は県の施設である。現状では、地震災害に焦点があてられた遺構・伝承施設になっているが、建設に至るまでの県民や関係市町村との合意形成がどのように行われたのは判然としない。ただし原発被害については、まだまだ収束しておらず、訴訟も含めてまだこれからというところもあって、記録しにくい部分もあると考えられる。

今後とも、原発関連の避難の状況や復旧、復興の過程など、これまでの対応を詳細に記録し、保存いていくことは必要、かつ重要な課題である。管理・運営は指定管理者として(公財)福島イノベーション・コースト構想推進機構が行っている。今後の運営も指定管理者としての力量が問われる。いずれにしても、県民・市民、関係市町村のさまざまな意見を今後の運営に反映していく努力が求められる。

#### <参考資料>

■ いわき市復興事業計画(第四次)

http://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1001000003980/index.html

- 同 いわき市津波被災市街地土地利用方針 平地区
  - http://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1001000003980/simple/08\_hukkouzigyoukeikaku.pdf
- いわき震災伝承みらい館

https://memorial-iwaki.com/

■ 浪江町震災・復興記録誌

https://www.town.namie.fukushima.jp/soshiki/1/28194.html

■ 震災遺構・浪江町立請戸小学校

https://www.town.namie.fukushima.jp/soshiki/12/29757.html

■ 同 パンフレット

https://www.town.namie.fukushima.jp/uploaded/attachment/15585.pdf

- 東日本大震災の震災伝承施設の実態把握と効果的な利活用のための提案:来訪者の目的と防災行動変容への効果に着目して(地域安全学会論文集 No. 39, 2021.11) https://www.jstage.jst.go.jp/article/jisss/39/0/39\_267/\_pdf/-char/ja
- 2019 年東日本大震災伝承活動調査報告書(2020年7月、公益社団法人 3.11 みらいサポート)

https://311support.com/wp2/wpcontent/uploads/2020/08/311DisasaterEducationReport2019.pdf

- 東日本大震災による「震災遺構」の現況調査 城西国際大学紀要(2020年3月) https://www.jiu.ac.jp/files/user/education/books/pdf/2019-28-7-005.pdf
- 東日本大震災における震災遺構の現状 宮城県内の動向を中心に (復興 13 号 Vol. 7 No. 1 2015. 7. 一般社団法人 減災・復興支援機構理事長 木村 拓郎) https://f-gakkai.net/wp-content/uploads/2020/09/13-1-2KIMURA.pdf
- 東日本大震災・原子力災害伝承館 https://www.fipo.or.jp/lore/
- 西日本新聞 (2021/2/14) 語り部に批判認めず…原子力災害伝承館ルポ https://www.nishinippon.co.jp/item/n/692772/